

～こころに笑顔の種がふる～

2023 Vol.70

はあとふる

地域の皆さまに、
Warm Heart(心)
Cool Head(知識・判断)
Beautiful Hands(技術)で
ヘルスケアサービスを提供するための
コミュニケーション誌



2023年 やってみよう!
重力 いてみよう! 

真

真、向うから、真正直に、真剣に、
事実に向き合い、科学的真実も追求めつ、
最善のケアを検討・協議し、提供する

皆さん、明けまして、おめでとうございいます。

お正月はいかがお過ごしでしたか？

2023(令和5)年はうさぎ年、私
事です、年男となります。6巡目で、
72歳になります。早いですね。年齢と
ともに、1年が巡っていくスピードが
加速している気がします。私は変わっ
ているのかもしれませんが、年齢相応
に背中へ背負っているものを徐々に下
ろして、ゆったり生きるような心がける
という風に、どうしても自分を持って
行くことができません。時の流れのス
ピードに負けず、もっと知りたいこと、
もっとやらねばと思うものですから、
毎日の忙しいこと。

人のために生きるなんて偉そうな理
由ではなく、純粹に、自分が知りたい、
自分がこうしなければと自分に期待
し、さらなる前進を心から希望してい
るという感じです。この気持ちに添う
ために、効率的な方法などありません。

ともかく、考え、学習し、その成果をま
とめて方針を定め、自分なりに行動す
るということの繰り返ししかないと
思っています。

今さら、すいすいとかっこよく進む
ように変身することなどできないので
すから、今年も自分の足元を見つめ、愚
直に一歩ずつ進むしかないと思っています。
COVID-19感染症の影響もあり
り何となく落ち着かない世相ではあり
ますが、良い1年になることを祈って
います。

本年もどうぞよろしく、お願い申し
上げます。

はあとふるグループ
代表 島田 永和



2023年 やってみよう! 動いてみよう!

はあとふるグループ 院長・施設長ごあいさつ

皆さんは、どのように新年を迎えられましたでしょうか？私は、ここ数年、心の底から新年を祝う気持ちで過ごせていないように思います。

一時の状況からは改善したとはいえ、COVID-19感染症の影響もあり、十分なコミュニケーションを取りづらい状況が、まだまだ残っています。そのうえ、この先に乗り越えないといけない問題も山積みです。その問題の一つに、2024年4月に施行される医師の働き方改革があります。

これまでは、それぞれの医師の使命感や情熱に頼って激務をこなしてもらったことで、医療が成り立っていた部分があります。この実態のままに、医師の働き方改革を進めると、地域医療は崩壊する

のではないかと懸念される点がたくさんあります。

とはいえ、医師をはじめとする医療従事者の思いだけに頼って、彼らの労働時間がむやみに長くなることを続けるのは好ましくありません。医療従事者の労働環境を整えなければ、いまの医療体制・医療レベルを持続させていくことも難しくなっています。

この医師の働き方改革を推進するには、有限である医療資源を効率的に活用することが求められ、私たちは、多職種のチームでケアする力を強めます。また、一方では受診される方々の理解も必要になってきます。

今年はずき年。うき年はずきと飛躍する年とも言われるそうです。今年は何かピョンと雲



八尾はあとふる病院
院長 阪根 寛

2020年初頭に起きたCOVID-19感染症は収束の気配が見られず、2022年11月頃からは第8波到来と報道もされております。当院でも昨年1年間、COVID-19感染症の波に襲われ、じっと耐えながら、職員全員一丸となって感染対策を行いながら、運営を行ってまいりました。予防接種が行き渡り、またCOVID-19感染症が発生したとしても点滴薬や内服薬の登場、それに加え職員全員での感染対策により重症化や長期化することも少なくなってきたことが入院受け入れの中止を短期間で収束させることができた要因の一つだと思います。

2023年が一日でも早く以前の生活に戻れるようになることを切に願っております。

らは、「心臓リハビリテーション」を新たに展開し、「運動器」ともにリハビリ部門の強化を行いました。また地域の皆さんに充分に浸透していかないのが現状です。『動いてナンボ!』をモットーに質の高いリハビリテーション・ケアを地域の方々に提供していきたいと思

います。さらに「訪問診療」を中心とした在宅事業についても少しずつ地域のニーズは高まってきていると思

を抜け出したいですね。私たちが飛躍するために、土台がぐらついていないか？ぬかるんではないか？と足元をしつかり見つめながら飛躍できるように心がける一年にして参りたいと思います。

どうか本年もよろしくお願い申し上げます。



運動器ケア しまだ病院
院長 勝田 紘史

昨年は、介護老人保健施設 悠々亭入所フロアにおいて、3度のCOVID-19感染症クラスターを経験いたしました。ワクチン接種が進んだことや点滴薬・内服薬が使えるようになったこともありますが、スタッフが連携を強化し、日々工夫しながら効率的なケアを継続できたことが、短期間で収束できた一番の

要因だと考えています。また、運動器ケア しまだ病院、八尾はあとふる病院のスタッフからも支援をいただき、感謝しております。感染症に限らず災害に対しても強い施設となるべく、今後とも精進していきたいと考えています。

「その人らしい生き方に寄り添うために、高齢者を支援してきたいと考えています。」

施設」として1997年4月に開設された悠々亭は、質の高いケアを提供するべく努力してまいりましたが、建物や設備の老朽化は否めず、昨年大きなリニューアルを実施いたしました。そして、これまでの悠々亭の取り組みやリニューアルの趣旨に賛同して頂いた85名の方から、目標金額300万円を超える支援がクラウドファンディングを通じて寄せられました。本当にありがとうございます。

悠々亭では、その人に合った機能リハビリ、生活リハビリに多職種で取り組んでおり、特に「認知症ケア」「薬の調整」「アドヴァンス・ケア・プランニング（人生会議）の普及」に力を入れています。2023年も、これらの取り組みを継続し、より良いものへと発展させていきたいと考えています。

これからも、羽曳野市及びその近隣市町村の高齢者ケアのため、住み慣れた地域で「自分らしく」生活す

ぎたいと考えています。これからも皆さんのご理解とご協力をお願い申し上げます。



介護老人保健施設 悠々亭
施設長 金岡 禧秀

2023年 やってみよう! 動いてみよう!

DAチームの変化 業務改善で見えてきたこと



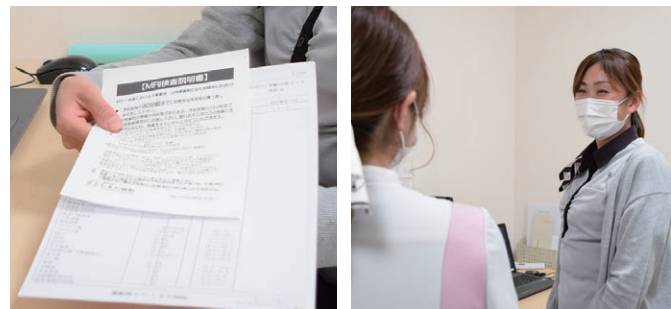
原田 めぐみ

発表者

事務部 しまだエリアケア支援チーム
[共同研究者] 米田 円花・DAチーム一同

発表の概要とポイント

- 運動器ケア しまだ病院では、2012年からDr. Assistant(ドクターアシスタント：医師の事務負担を減らすための事務作業補助者<DA>)制度を導入
- 2018年病院リニューアルに伴い、さらに業務を分けて医事チームとDAチームの2チーム制に。同時に専門性を高めるための業務改善活動を開始
- おもな改善施策は、①スキマ時間の有効活用 ②書類作成スキルラダーの活用 ③医師事務作業補助者研修を受講 ④配置の固定化を廃止・ローテーション制導入 の4点



診察室の医師の横で、医師から指示されるMRI、CTなどの各種検査機器の空き状況を確認して予約。患者さんには、検査日時、検査の準備や注意点なども案内する。また、総合受付と診察室との連携もこのチームの重要な仕事。患者さんが症状について何度も同じ質問を受けることのないように、受付の問診票で得た情報と患者さんの初見の状態はすぐに看護師と共有。また、診察内容は受付スタッフと共有して、会計待ち時間の短縮に努めている

病院リニューアルを機に2018年2チーム制(医事チーム・DAチーム)に変わって以降、私たちは、一人ひとりの専門性を高めるために、次の4つの視点から業務改善活動が続けてきました。

①スキマ時間の有効活用…業務を30分刻みで書き出し、シフト表や日報上では見えていない業務内容を言語化②書類作成スキルラダーの活用…書類作成に必要な知識を洗い出し、全スタッフが均質に書類作成できるようカリキュラム化③医

師事務作業補助者研修の受講…基礎知識、専門性を強化するため外部研修の活用④配置の固定化を廃止、ローテーション制を導入…どの作業を誰が担当しても同じレベルで対応できるよう標準化。

一つひとつはどれも小さな改善です。しかしそれを積み重ねた結果、たとえばコロナ禍で頻繁に起きた診療体制変更などにも、チームとして柔軟に対応できた実感があります。

この種の活動はともすれば「病院長の生産性を高める活動」に思われが

ちですが、そうではありません。検査日時、内容や準備をわかりやすく案内することで疑問や不安を軽くしたい。外来の診察待ち時間や会計待ち時間を少しでも短くしたい。その結果、一人でも多くの患者さんが通院・受診できる環境を整えたい。私たちが一番優先して考えているのは、患者さんのことです。これからの苦手意識や固定観念に縛られることなく、新しい変化を生むために「小さなことからやってみよう」と思っています。

診察待ち、会計待ちを短くしたい
患者さんを第一に考えた業務改善を!

第31回 はあとふる学会を終えて

2023年 私たちのやってみよう!

去る2022年11月27日(日)、はあとふるグループ恒例の研究発表会「はあとふる学会」が行われました。

31回目となった今回の学会テーマは、「一歩前進 やってみよう!変わっていこう!」。2023年に向けて、さまざまな「やってみよう!」が報告されました。

この号では、その中からみなさんにぜひ報告・共有しておきたいユニークな活動や挑戦的な取り組みをご紹介します。

2023年の「私たちのやってみよう!」。どうぞ、ご期待ください。



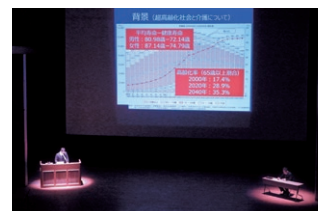
第31回 はあとふる学会 実施概要

開催日時 2022年11月27日(日) 9:00~16:00
テーマ 一歩前進 やってみよう!変わっていこう!ー

はあとふる学会とは?

はあとふる学会は、はあとふるグループ全スタッフを対象とした研究・業務改善発表会です。

日ごろの医療・介護活動で良い結果を得られた症例や、業務推進の工夫・改善点などのナレッジ共有を目指し、発表者は質疑応答を含め8分内で報告します。



学会の始まりは1992(平成4)年に遡り、「第1回島田学会」として「管理元年・学問元年」をテーマに掲げ、開催されました。以降、2020~21年のコロナ禍においてもオンラインで開催を続け、毎年欠くことなく続けてきました。

3年ぶりに対面での開催となった今回の学会は、5つのセッション・計29題の報告(①ケア(6グループ) ②改善(6グループ) ③体制・連携(6グループ) ④チーム(6グループ) ⑤研究(6グループ))とランチョンセミナー(2題)が開かれました。

今回のテーマ「やってみよう!」に馳せた想い



第31回 はあとふる学会 学会長
運動器ケアしまだ病院・公認心理師
渡辺 晋吾

はあとふるグループには、まだまだ力を発揮できていない仲間がたくさんいるはず!日々いろんな職種の仲間と二緒に働きながら、そう感じていました。

必要なのは力を発揮するための環境です。はあとふる学会はまさにその舞台と考え、だからこそ今回は、コロナ禍でも、オンラインではなく対面開催にこだわりました。また、研究や発表の経験がなくても「よし、やってみよう!」と一歩を踏

み出せるよう、そのノウハウを学べる「やってみよう!サポーターチーム」を立ち上げました。少しでも多くの方に学会や研究に関心をもってもらいたいと思い、新たな取り組みにもチャレンジしました。結果、近年では最多の31演題が集まり、その内初めて発表した方は12名、当日は対面+オンラインでのハイブリット開催となり、220名超の方が参加してくれました。

研究や発表は、決して楽ではありません。しかし、日々の努力を振り返り、その成果を見える化し、広く知ってもらうには格好の機会です。やり遂げた経験は自信となり、より良いケアやマネジメントにつながっていきます。はあとふるケアを研鑽する場として、次期ははあとふる学会が素晴らしいものになることを願っています。

2023年 やってみよう！ 動いてみよう！

悠々亭におけるAikomiシステムを用いた回想法



桑田 直弥

発表者

診療支援部 介護エリア入所事業

〔共同研究者〕西田 有希・田中 雅己・村石 健太・野口 善正・谷 純歌・竹永 陽子・小野 幹・江良 優子・濱田 帆南・渡邊 みゆき・金藤 智美・辻井 佳子・伊藤 琢二・金岡 禎秀・井谷 詠夢・松崎 友紀・渡辺 晋吾

発表の概要とポイント

- 介護老人保健施設 悠々亭では、2019年から株式会社Aikomiと共同して、AIとIoTを活用した非薬物的アプローチによる回想法「Aikomiシステム」を開発、臨床導入。
- 回想法は、昔の思い出話を用いる心理療法。残存しやすい昔の記憶をターゲットに、昔の写真や歌などで刺激して認知機能や感情などの活性化を図る
- 悠々亭では、2022年4月、Aikomiによるグループ回想法活動を再開。現在、＜入所＞では週2回平均25名程度、＜通所介護＞では週1回平均10名が継続的に利用・参加



一般的な回想法の場合、大晦日や正月などの行事の写真や歌の素材を自分で準備せねばならないが、Aikomiならタブレットで瞬時に用意できる。現在、悠々亭＜入所＞では週2回平均25名、悠々亭＜通所介護＞では週1回平均10名、通所介護ゆうゆうハウスでも週1回平均10名が継続的に利用・参加。さらなるサービス拡大を目指して、各施設のスタッフがファシリテートできるよう、ノウハウの標準化を進めている

AIとIoTを活用した回想法で、その人らしい穏やかな時間を取り戻す

悠々亭では、コロナ禍による中止を経て、2022年4月、Aikomiによる回想法の活動を再開しました。「家に帰りたい」という気持ちが生じやすい夕方16時台に、1回30分程度活動しています。みんなが昔の思い出話を語り合ったり、穏やかに過ごすことで、認知症のBPSD（行動・心理症状）を緩和し、夕食や就寝にスムーズに移ってもらうためです。

再開当初、「大相撲を見てたのに消しやがって！」など、不安や戸惑いも多く、発語量や発語回数は少ないままでした。4週間ほどが経ち、「後ろの人がテレビを見えにくいからこの車椅子を動かしたって」など、ご利用者同士の交流や配慮なども生まれてきました。また、「あんたも私と同じ九州出身か」と新しい話題を記憶したり、夕方に帰宅願望が出てしまうご利用者に対して、「私も泊まるから、あんたも泊まっていき」と気持ちの落ち着かせるように声かけされる場面も見受けられます。とある方から「ここは家でも病院でもないけど、あんたらがお

るから居心地は悪くないよ」と話していたのが印象的でした。

この回想法・Aikomiはまだ開発途上ですが、これまでにない手応えも感じています。

少しの間でもその人らしい時間を取り戻してもらうために。もっと回数も増やして「やってみよう！」。グループ内のほかの施設でも「やってみよう！」。そのためには、今後は各施設のスタッフもファシリテートできるようにトレーニングしていく予定です。

「はあとふる保健室」で、来院される方へのあたたかい看護を



河戸 恵美

発表者

看護部 しまだエリア外来事業

〔共同研究者〕村口 あや・桑野 光・松村 理香・平田 明美・有井 洋子・畠中 佳子

発表の概要とポイント

- 運動器ケア しまだ病院では、2022年4月から、1階正面玄関入ってすぐの場所に「はあとふる保健室」を開設
- 外来の患者さんや地域の方が自由に立ち寄り、病状や診療内容に関する疑問や不安はもちろん、手術や入院、介護や在宅生活支援など、あらゆる相談ができる体制を整えた
- 今後は、【診察・治療】→【入院・手術】→【退院・自宅復帰】→【外来通院・リハビリ（または関係機関や施設への紹介）】といった「地域包括ケアシステム」のハブとなる活動を展開していく

- ◆開設以来のおもな相談内容
- 医療や健康に関する相談 245 件
- 介護や在宅生活に関する相談 42 件 など
- ◆相談への対応内容
- 助言・注意喚起・説明 162 件
- 受診推奨 21 件
- 他部署や関係機関への連絡調整 71 件 など



自ら患者さんと接する機会を作るために院内を巡回。「みまもりたい」の腕章をつけて、玄関で患者さんを出迎えたり、隣接するフィットネスクラブ「ヴィゴラス」に出向いたり。会話の中から何を不安に感じているのかを探し、解決の糸口を提示する。単に「話を聞く・相談にのる」だけではなく、グループ内の介護老人保健施設や通所介護サービスなどとの連携、さらにはソーシャルワーカーを通じた自治体との連携、他病院・他事業者への紹介なども行う

フロアで不安そうな患者さんに声かけ。「地域包括ケアシステム」のハブに！

運動器ケア しまだ病院の1日の外来患者数は、約400名にのぼります。本来なら、診察時にじっくりお話を聞き、よりよいケアや解決策をお示しして、その不安を解きほぐせればベストです。しかし今の診療環境下では限界がありました。そこで誕生したのが、この「はあとふる保健室」です。

開設して約1年間、利用された方の様子を振り返ると、共通する要素が浮かびます。皆さんが求めているのは「話を聞いてもらいたい」

「きっかけをつかみたい」「納得・安心したい」のです。たとえば病状なら、「先生に聞くのは憚られるけど、どの程度悪いのか？本当に治るのか？」。そんな「ぼんやりとした不安」です。あるいは、退院後の自宅生活での困りごとや介護サービスなどは、患者さんだけではたどり着けない専門情報もあります。

私たちは、待合フロアを巡回し、不安そうな顔や所在なく戸惑う患者さんにお声掛けすることから始めています。広範脊柱管狭窄症に

苦しまれ、職を失い、困り果てたうに数年ぶりに来院された方もいらつしました。その方に対しては、難病指定や介護保険の申請の支援を行い、手術を受けて退院され、いま生活再建に向けて動き始めています。

「治す」ケアにとどまらず、「治し、支える」ケアへ。この保健室が、とことん寄り添う地域包括ケア体制づくりの拠点になれるよう「やってみよう！」。それが私たちの思いです。

古墳のまちでのエトセトラ

Information



「オレンジカフェ」とは？

認知症の方とご家族が、地域住民の方や、介護・福祉・医療の専門家と身近な場所で集い、交流できる場のことです。



介護老人保健施設
悠々亭

2月14日(火)
11:00~15:00

オレンジカフェを開催します！ 参加者・ボランティアを大募集！！

- 場 所** 介護老人保健施設 悠々亭 1階併設フロア
対 象 高齢者、介護者、地域住民の方
申 込 事前申込不要 **費 用** 飲食代

どなたでもご参加ください！

昼食の場、井戸端会議の場、介護のお悩み相談ができる場として、地域の皆様にお気軽に活用してもらえたらと考えています。
認知症介護などで困っている、悩んでいる、相談したい、話し相手が欲しいなどの相談や、認知症予防向け体操(コグニサイズ)、脳トレーニング(コグエボ)、思い出話を聞いた心理療法(Aikomi〈アイコミ〉P09参照)などの体験もできます。

ボランティア募集！

当日にカフェのお手伝いをしていただけるボランティアの方も募集しています。配食などの簡単なお手伝いです。お気軽にお電話ください。
新型コロナウイルスへの感染対策をした上でお願いします。

問い合わせ 介護老人保健施設 悠々亭 ☎ 072-953-1002 (阪村)



※前回のオレンジカフェの様子



はあとふる 食堂

管理栄養士の
旬のレシピ



運動器ケア しまだ病院
管理栄養士
足立 友美

1人あたりの 栄養価

エネルギー：274kcal
たんぱく質：22.1g
脂質：17.7g

材料 (2~3人分)

- 絹ごし豆腐 ……1/2丁(150g)
- マヨネーズ ……大さじ1
- 粉チーズ ……大さじ2
- しめじ ……1株
- マイタケ ……1パック
- 玉ねぎ ……1/2個
- 鮭缶 ……1缶(180g)
- コンソメ顆粒 ……小さじ1
- 塩こしょう ……少々
- サラダ油 ……小さじ2
- ピザ用チーズ ……50g
- パセリ ……少々

作り方

- 1 ボウルに絹ごし豆腐、マヨネーズ、粉チーズを入れ泡立て器で混ぜペースト状にする
- 2 しめじは石づきを取り除きマイタケと一緒に小房に分け、玉ねぎは薄切りにする
- 3 熱したフライパンにサラダ油を入れ、玉ねぎとしめじ、マイタケをしんなりするまで炒めコンソメを入れて混ぜる
- 4 3に鮭缶の缶汁をきって入れ、粗くほぐしながらさらに炒め、塩こしょうで味を調える
- 5 耐熱皿に4を盛り、その上に1をまんべんなくかける
- 6 ピザ用チーズを散らし、オーブントースターで焼き色がつくまで焼き、彩りにパセリを散らして出来上がり

寒い冬を乗り切るためには感染症に負けない高い免疫力を保持することが大切です。
きのこ類に含まれる食物繊維の一つ・βグルカン免疫細胞を活性化させる働きがあります。そんなきのこをたっぷり使用した、温かいメニューをご紹介します。
グラタンのホワイトソースの代わりに、「畑の肉」とも言われる豆腐を使用した、良質なたんぱく質がしっかりとれる1品です。

Point

- * 鮭缶は骨まで食べられるよう加工されているのでカルシウムがたっぷりとれます。
- * 骨が気になる高齢の方や小さいお子様がいらっしゃるご家庭では、よくほぐす、またはツナ缶等で代用ください。
- * 具材はお好みでアレンジ可能です。

食事のパワーで免疫力アップ!!

vol.14

きのこたっぷり豆腐グラタン

はあとふる

Vol.70 ♡ 2023年1月

「今号の記事」

●年4回発行
●発行・編集
[広報チーム]
〒583-0875
大阪府羽曳野市榎山100-1
☎072-953-1001(代)
●制作協力
株式会社エディウス

〈特集〉

2023年 やってみよう！動いてみよう！

- 02 **〈はあとふるグループ 代表ごあいさつ〉**
はあとふるグループ 代表 島田 永和
- 04 **〈はあとふるグループ 院長・施設長ごあいさつ〉**
運動器ケア しまだ病院 院長 勝田 紘史
八尾はあとふる病院 院長 阪根 寛
介護老人保健施設 悠々亭 施設長 金岡 禧秀

第31回 はあとふる学会を終えて 2023年 私たちのやってみよう！

- 07 **【学会長賞】**DAチームの変化 業務改善で見てきたこと
- 08 **【理事長賞】**「はあとふる保健室」で、
来院される方へのあたたかい看護を
- 09 **【1位】**悠々亭におけるAikomiシステムを用いた回想法

〈連載〉

はあとふる食堂 — 管理栄養士の旬のレシピ — きのこたっぷり豆腐グラタン

はあとふる たより「始動。」

古墳のまちでのエトセトラ — Information — 2月14日(火)11:00~15:00 オレンジカフェを開催します！ 参加者・ボランティアを大募集！



始動。

はあとふる たより

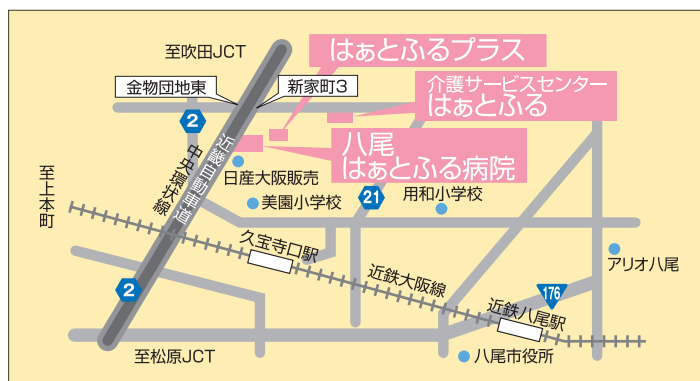
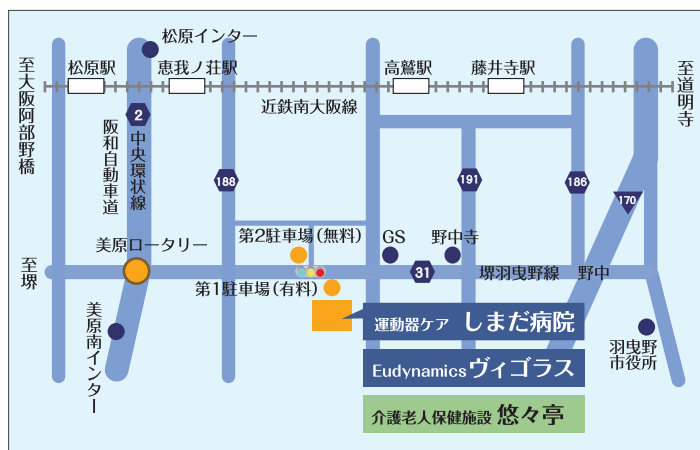
はあとふるグループでは、年に1度、年始である1月に「メッセージボスター」始動。を施設内に掲出しています。私たちが日々の医療・介護現場で感じていることをスタツツみんなで共有したい、そんな想いから始めた活動です。ぜひ、「読」ください。

ひととはひととの出会いや、ひととの関わりの中で、どれだけこころを動かされるのでしょうか。
時に、とてもやりきれない気持ちになっても、周りが見えていなかった、考えられていなかった、そう思うことだってありますね。
自分の周りで、どんなひとが、どんな気持ちで過ごしているのか、どんなひとが、どんなひとと、どんな仕事をしたり、会話をしているのか、自分と違うところは？自分と同じところは？
そうして周りを意識していくと、私とあなた、それからもっと周りのひとのことが、気になってくるのではないのでしょうか。
そうしたら、自分にかけられる言葉や、自分に送られる視線やふれられる手から、何かを感じとり始めるでしょう。
周りのひとにかけられる言葉や、周りのひとに送る視線やふれようとする手が、何か変わってくると思うのです。
私たちは、患者さん、利用者さん、ご家族と一緒に働く仲間、どんな視線を送っているでしょう、どんな風にふれているでしょう、そして、どんな言葉をかけているでしょう、その一つ一つが、誰かの励みになることもある、そう信じています。

その人がその人らしく自分の人生を全うすることを
Warm Heart -心- Cool Head -知識・判断- Beautiful Hands -技術- で支援します



<http://www.heartful-health.or.jp/> はあとふるグループ 



はあとふるグループ

医療法人はあとふる

- ☐ 運動器ケア しまだ病院 Tel.072-953-1001 / Fax.072-953-1552
- ☐ Eudynamics ヴィゴラス Tel.072-953-1007 / Fax.072-953-1007
- ☐ 介護老人保健施設 悠々亭 Tel.072-953-1002 / Fax.072-953-1911
 - ☐ 通所リハビリテーション Tel.072-953-0045 / Fax.072-953-1911
 - ☐ 訪問リハビリテーション Tel.072-953-1002 / Fax.072-953-1911
- ☐ 通所介護 悠々亭 Tel.072-979-7807 / Fax.072-953-1911
- ☐ 訪問看護ステーション ハートパークはびきの Tel.072-953-1004 / Fax.072-953-0022

〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山100-1

- ☐ 介護サービスセンター ゆうゆう亭 Tel.072-953-5514 / Fax.072-953-1332
- ☐ ヘルパーステーション 悠々亭 Tel.072-953-1062 / Fax.072-953-0022

〒583-0883 大阪府羽曳野市向野3-96-7

- ☐ 八尾はあとふる病院 Tel.072-999-0725 / Fax.072-923-0180
 - ☐ 通所リハビリテーション Tel.072-999-0726 / Fax.072-923-0186
 - ☐ 訪問リハビリテーション Tel.072-999-0725 / Fax.072-923-0180

〒581-0818 大阪府八尾市美園町2-18-1

- ☐ 介護サービスセンター はあとふる Tel.072-999-8126 / Fax.072-999-6118

〒581-0815 大阪府八尾市宮町5-6-22

- ☐ 通所介護 はあとふるプラス Tel.072-920-7216 / Fax.072-920-7256

〒581-0815 大阪府八尾市宮町6-6-16

- ☐ 羽曳野市西園域 地域包括支援センター Tel.072-953-1003 / Fax.072-955-8301

〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山100-1 介護老人保健施設 悠々亭1階

社会福祉法人はあとふる

- ☐ 通所介護 ゆうゆうハウス Tel.072-931-1616 / Fax.072-931-1128
- ☐ サービス付高齢者向け住宅 ゆうゆうハウス Tel.072-931-1616 / Fax.072-931-1128

〒583-0875 大阪府羽曳野市榎山96-10

株式会社はあとふる

Tel.072-935-1821 / Fax.072-939-2309

〒583-0883 大阪府羽曳野市向野3-96-7